

白洲次郎、兵庫県内ゆかりの地を訪ねて！

芦屋で生まれ、伊丹から世界へ、三田に眠る

NHKが『白洲次郎』をドラマ化するとの噂と共に、兵庫県をはじめ、次郎に
関係する芦屋市、伊丹市などが観光目当てに積極的に動き出した。そして、二月
八日から宝塚歌劇『黎明の風』が始まったが、兵庫県は二月一〇日、親子での観
劇に半額補助を行い、知事が対談を行うという。県下で次郎の地縁を訪ねてみた。

白洲次郎出生地 芦屋

白洲次郎は明治三五年、兵庫県武庫郡精道村之内芦屋村で誕生芦屋市立美術館所蔵の長谷川三郎「芦屋浜風景」に描かれている白洲家は芦屋川沿いの風景を真正面から描いた素朴な雰囲気を持つている。白洲邸があつたのは、芦屋川が国道四三号線と交差する松林公園あたりではないかと思われます。

当時、児童二百名足ら



ずの精道小学校に通学。阪神電車芦屋駅より旧制第一神戸中学校（現県立神戸高校）に入学。大正

八年卒業大正五年頃に川辺郡伊丹町に移られた。



白洲商店のあった神戸

白洲文平は明治一五年明治学院に入学し、その後ハーバード大学やドイツのボン大学に留学。後に三井銀行に入行するが「ソロバンをはじいていては世間が見えなくなる」と言って退社。当時隆盛を極めていた繊維業界の大阪紡績会社（現東洋紡）。その後、貿易会社「白洲商店」を神戸市栄町二丁目一〇番地に設

立。綿花を輸入する商社でアメリカの綿産地の天気情報を電報で報告させ



て相湯の予測。収益チャ
ンスと見ると大胆に買い
付けて、短期間で大きな
利潤をあげ、巨万の富を
得た。

昭和三年「白洲商店」
は金融恐慌のあおりを受
けて倒産した。

青年期を過ごした伊丹

建築道楽として知られる白洲文平の最後の豪邸は大正六年頃芦屋より川辺郡伊丹町北村二五六（現伊丹市春日丘四丁目五〇番地）に移り四万坪の敷地に美術館付の豪邸を建てた。この屋敷の規模は桁外れにすくく、伊丹段丘崖から東方を眺めわたす豪華な建物で、中にはミレー、コロ、マティスらの名品で飾った美術館やボタン園などL字型の二階建てで贅の限りを尽くしたものであつた。

大正一〇年川辺郡立高



等女学校（現県立伊丹高
等学校）設立には一万円
（現在の貨幣価値で六千
万から一億円）を寄附し
ている。同じ年、伊丹町
は旧伊丹中学校（現北中
学校）から白洲屋敷を通
り緑ヶ丘へ通じるだけの
細い農道を、バスや自動
車が通行できるように拡
幅する工事を行っている。

移築された

白洲屋敷の長屋門 伊丹
「白洲屋敷」の長屋門が伊丹市東野五丁目六七農園芸業久保貞雄さん方に移築され、現在も門として立派に機能している。



白洲文平は昭和恐慌のあおりを受け破産、

白洲屋敷は八崎家に渡つたが、昭和三〇年代に八崎家もこの屋敷を手放すこととなり順に分割、分譲されていった。

このとき、とくに門や玄関部分の材料や造りが見事だったので、大鹿の林建設が再利用してくれる人を探し、門の移設を引き受けたのが久保さんだった。

白洲次郎が眠る 三田

白洲次郎は昭和六〇年一月二八日八三歳の生涯を終えた。正子夫人と子息に残した遺言書には「葬式無用、戒名不用」と記してあつた。正子は遺言書通り葬儀告別式は行わなかつたが、次郎が生きてきた証として白洲家の先祖が眠る三田市西山にある清涼山心月院の墓地に正子がデザインした五輪塔板碑を建てた。戒名はなく、次郎の碑には不動明王、正子の碑には十一面観音の梵字が彫られている。



車の極意は「No
Substitute」と次郎はトヨタの初代ソアラの開発責任者の岡田稔弘に一九六八年式のエンジンには本来二リッターだが、二・四リッターのものに換装した二代目開発の為にポルシェを寄贈した。岡田稔弘と豊田章一郎は完成したソアラをもって心月院を訪れ次郎の墓前に報告した。

三田学入門講座に延べ一五四名

有馬氏や民俗芸能もテーマに

昨年、一〇月二〇、二七日、十一月三、一七日の四日間に亘り中央公民館において恒例の三田学入門講座を開催した。「三田学入門講座」学習の狙いは三田ゆかりの歴史や人物について、市民に広く知ってもらい、郷土について理解を深め、人物史を通じて三田の歴史文化に興味を持ってもらい、豊かな郷土意識を育んでもらいたいとの趣旨で企画したもの。四日間の受講者は延べ一五四名。

困難に対処、川本幸民

初日の一〇月二〇日は郷土史家、勝本淳弘氏による「郷土の誇り「川本幸民先生」」。洋学以前の和算は世界水準にあつたと前置きし、蘭学は医学、薬学、植物学、そして化学と発展。化学は宇田川榕庵が優れていたが、更に発展させ近代科学として確立したのが川本幸民。欧米列強が東アジアに進出する中、川本幸民は学問、技術、産業、軍事などで、日本の危機に立ち向かい、明治における近代日本の基礎作りに貢献した。

播磨清水寺文書を読む

第二回目の一〇月二七日は市史編纂委員の印藤昭一氏による「播磨清水寺と赤松氏」の演題で兵庫

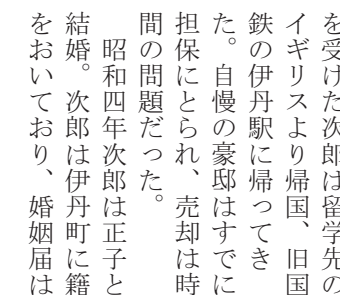
を相湯の予測。収益チャ
ンスと見ると大胆に買い
付けて、短期間で大きな
利潤をあげ、巨万の富を
得た。

昭和三年「白洲商店」
は金融恐慌のあおりを受
けて倒産した。

青年期を過ごした伊丹

建築道楽として知られる白洲文平の最後の豪邸は大正六年頃芦屋より川辺郡伊丹町北村二五六（現伊丹市春日丘四丁目五〇番地）に移り四万坪の敷地に美術館付の豪邸を建てた。この屋敷の規模は桁外れにすくく、伊丹段丘崖から東方を眺めわたす豪華な建物で、中にはミレー、コロ、マティスらの名品で飾った美術館やボタン園などL字型の二階建てで贅の限りを尽くしたものであつた。

大正一〇年川辺郡立高



等女学校（現県立伊丹高
等学校）設立には一万円
（現在の貨幣価値で六千
万から一億円）を寄附し
ている。同じ年、伊丹町
は旧伊丹中学校（現北中
学校）から白洲屋敷を通
り緑ヶ丘へ通じるだけの
細い農道を、バスや自動
車が通行できるように拡
幅する工事を行っている。

移築された

白洲屋敷の長屋門 伊丹
「白洲屋敷」の長屋門が伊丹市東野五丁目六七農園芸業久保貞雄さん方に移築され、現在も門として立派に機能している。



そして民話のルーツなどを解説してくれた。

三田町制の原型は大坂

最終回は当会副会長の高田義久氏による「三田の町制」。封建時代の武士階級と庶民階級の制度は大いに様相を異にしている。町役人、町勘定など三田の町制の原型は天下の台所大坂。江戸時代の政策は住民の土地定着を尊び、人別を明らかにすることを最大要事とした。吉凶相助け、寒暖相問ひ、有無互いに通ずる

ドラマ丸鬼奔流で町おこしをする会を応援します！

三田の先人の偉業に感謝

幕末の動乱期にあつて西洋の最先端の技術や知識を積極的に吸収し、日本人で初めてビール醸造に挑戦した、蘭学者、川本幸民。明治時代に日本の文化を海外に発信し、芸術や文化財保護に功績を残した九鬼隆一。



という町法は人々の本然の人情から湧き出したもの。町儀に相互扶助の精神を彷彿と感じさせてくれると熱弁を振るつた。



三田学入門講座受講風景

二人はわれらが郷土、三田を代表する、日本全国に誇るべき歴史上の大人物である。彼らの人生の足跡を辿りながら、三田の歴史をあらためて紐解くとともに、日本の歴史において二人が果たした役割を振り返りつつ、今日の三田と日本の発展、人々の幸せの礎を築いた先人の偉業に思いを致し、改めて感謝の念を表す次第である。

参議院議員 辻 泰弘